

2026年7月1日

July 1, 2026

学生・教職員各位

To all faculty, staff, and students

藤田医科大学 精神・神経病態解明センター

名誉センター長 貝淵弘三

## 2026年度

### 第2回 Fujita Advanced Methods Journal Club 開催通知 Information on Fujita Advanced Methods Journal Club 2026

#### ◆ 演者：石川 充 先生

(藤田医科大学 精神・神経病態解明センター 神経再生・創薬研究部門)

「バーコドラベル化されたG欠損型狂犬病ウイルスを用いた神経細胞マッピング」

Mitsuru Ishikawa (Division of CNS Regeneration & Drug Discovery, International Center for Brain Science, Fujita Health University)

- New Frontiers in Neural Circuit Mapping Using Glycoprotein-Deleted Rabies Virus (RVΔG) -

日時: 2026年7月24日(金) 12:00 - 13:00

Time and Date: Friday, July 24, 2026, 12:00-13:00

場所: オンライン開催 (Zoom)

This seminar will be held online

受講対象者: 学内外にかかわらず、どなたでもご参加いただけますが、生命科学について大学学部生程度以上の知識をお持ちであることが望ましいです。

参加方法: 下記サイトより必ず事前登録してください。

このミーティングに事前登録する:

<https://us02web.zoom.us/j/85869893063?pwd=Hg5sMugWmtDbVFMQ24vnbEIMRVjaVb.1>

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

使用言語: 日本語

Language: Japanese

講演要旨: さまざまな機能の全容把握のため例えば脳機能の把握においても、神経細胞の接続と相関を理解する必要があります。これまでは、免疫組織化学、電子顕微鏡、MRI、電気生理学的な手法でこれらが進められてきました。しかし、網羅的に、複数種類の神経細胞の接続を同時に見ることはほぼ不可能でした。今回、逆行性神経トレーサーであるG欠損型狂犬病ウイルスとRNA-Seq技術とを組み合わせることで、これを可能にするという技術紹介をいたします。これは解剖生理学的な側面だけでなく、ウイルス発現技術とRNA-seq技術によって病態解析・創薬、再生医療などにも応用可能な技術に発展すると予想され、多方面でのさまざまな応用可能性について議論を予定します。

担当者連絡先:

・講演に関して: 研究推進本部 精神・神経病態解明センター 武内・石川・中野・船橋

(内線: 2593 メール: [kosei.takeuchi@fujita-hu.ac.jp](mailto:kosei.takeuchi@fujita-hu.ac.jp))

・その他: 鶴田・片岡 (研究支援部 研究支援課 内線: 2590 メール: [icbs@fujita-hu.ac.jp](mailto:icbs@fujita-hu.ac.jp))